

柴田拓二先生を偲ぶ

後藤 康明

●北海道大学大学院工学院 教授



北海道大学名誉教授・北海道工業大学名誉教授、本会・名誉会員で建築構造学および工学教育の発展に大きく貢献されました柴田拓二先生は、平成22年5月2日に満80歳で逝去されました。ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

柴田拓二先生は、終戦直後の昭和21年北海道大学予科に入学され、昭和27年に工学部建築工学科の2期生として卒業されました。卒業後、清水建設に入社し、設計部や現場監理を担当されていましたが、昭和32年8月に恩師の大野和男先生の要請によって北海道大学工学部講師として招かれ建築構造学研究室を担当されました。その後、助教授、教授に昇任され工学部長を歴任し平成5年に北海道大学を退官され、引き続き北海道工業大学に招かれ学長として活躍されました。

先生はわが国の建物の主要な構造として採用されている鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造の挙動、および建築物の設計で重要な荷重問題について独創性の高い研究を行い、特に鉄筋コンクリート構造部材のせん断抵抗機構の解明に貢献され、昭和50年に日本建築学会賞(論文賞)を受賞されました。また、北海道などの積雪寒冷地で建築物の設計荷重として重要な積雪荷重について、実際に作用する建物の屋根雪の重量データを収集し、各種のデータ分析を行って現在設計で使用されている雪荷重評価法の基礎を築きました。この成果により平成8年に北海道科学技術賞を受賞されました。

建築教育では、日本工学会、日本学術会議あるいは日本建築学会等の諸委員会において、わが国の工学教育の推進と人材育成に長い間貢献してきました。すなわち、わが国の工業教育の水準と国際的流通性をいっそう高めるべきことを、大学の組織運営、大学教員の教育に対する意識、工学教育の評価体制、技術者の資格制度等の広い立場から論じ、大学教育は如何にあるべきかの一層の議論の必要性を強く主張し自ら実践し

てきました。これら一連の理念とその実現は、工学教育分野の注目を得ており、工学教育における貢献が大きいと評価を受け、この業績に対して平成15年日本工学教育協会功績賞、平成19年日本建築学会賞(教育業績)を受賞されました。

先生は、各学協会の副会長・理事等を歴任され、また日本学術会議会員としてわが国の学術・技術の全般に拘る発展に寄与されました。さらに学協会の北海道支部長をはじめとする役員を務め、それぞれの学協会の発展に貢献されました。この功績により、溶接学会学術振興賞、日本溶接協会業績賞を受賞された他、日本建築学会、日本コンクリート工学協会、日本雪工学会、日本地震工学会から名誉会員に推挙されました。

先生は建築構造学および工学教育の国際化の発展に大きく貢献された功績により、平成20年に瑞宝中綬章を受けられ、更に平成21年には日本建築学会大賞を受賞されました。

先生は常に広い視野を持つて的確な判断をされることから、多くの方から信頼を得てそれに応えられるお人柄でした。これからも柴田先生の大きな心で我々を見守ってくださると思っております。 合掌